



J-OIL MILLS

株式会社 J-オイルミルズ

11. 3上期はデフレ環境下で価格是正に苦戦し大幅減益に

11. 3期は原料価格の急騰も、

製品の適正価格実現に全力を尽くし、採算回復へ

- ・11. 3期業績予想
- ・中期経営計画について

2010年11月25日

問い合わせ先: 広報・IR推進室長 藤田 一郎

TEL: 03-5148-7103

FAX: 03-5148-7107

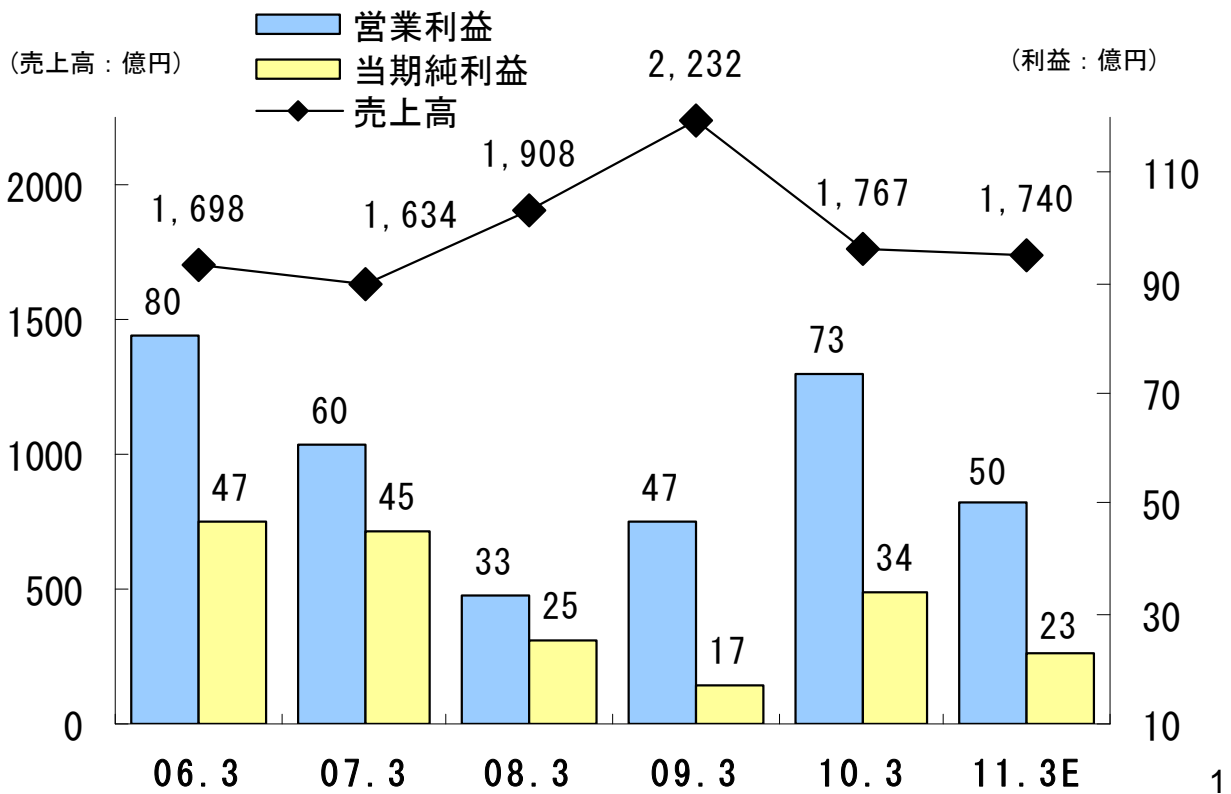
E-mail: ichiro.fujita@j-oil.com

グラフ

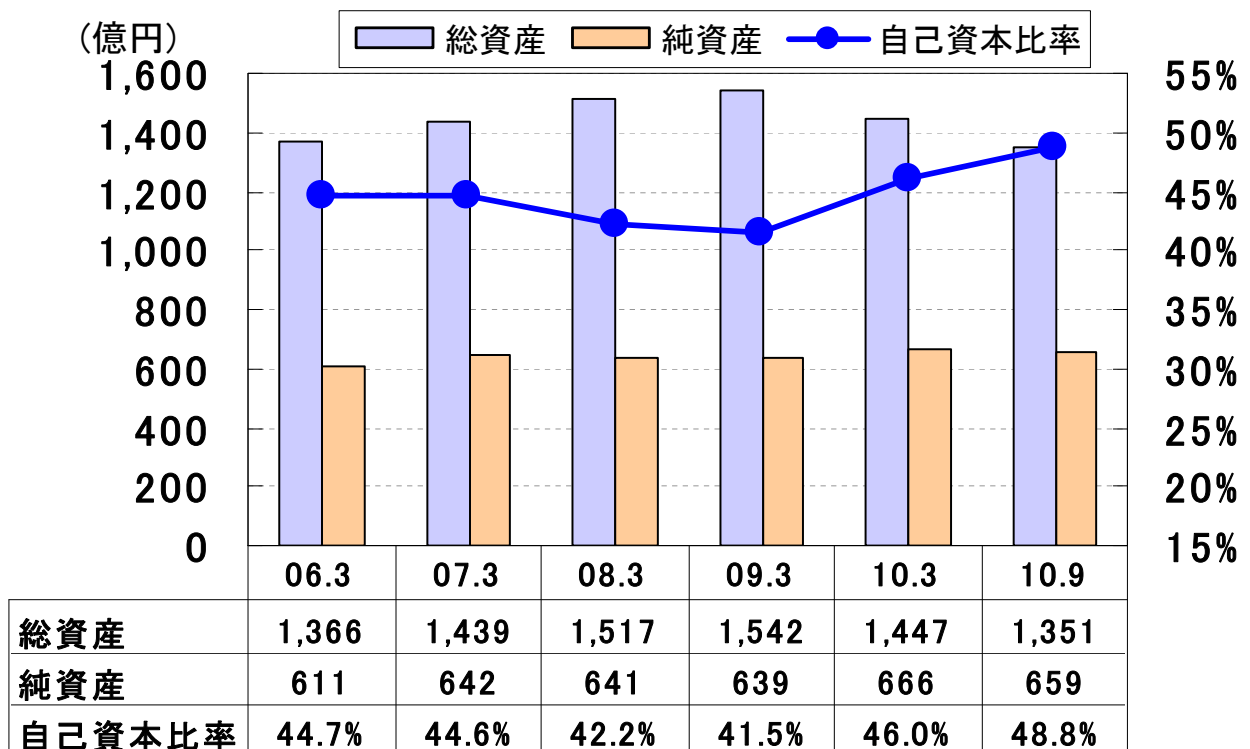
連結業績：直近6期推移	1
連結総資産&純資産：直近6期推移	2

第一章	11. 3期業績予想	3
	「コストに見合った価格実現！」進捗遅れ、減益へ	4
	更なる原料相場高騰の中、不退転の決意で価格是正へ	5
	海外相場は急騰	6
	ミール市中相場は、海外相場と円高により低下	7
	ミールバリューは下期にかけて、さらに低下傾向	8
	大豆相場上昇とミールバリュー下降が重なり油原価急上昇	9
	原料高に遅れるも、価格上昇が進む	10
	業績対策から下期ソフト策実施、通期は期首目標を維持	11
第二章	中期経営計画	12
	第二期中期経営計画の進捗状況	13
	第三期中期経営計画の方向性	14
	糖鎖関連技術の活用【レクチン】	15
	スターチ部門の新しい可能性【アミコート】	16
	いよいよ拡販段階へ【ビタミンK2】	17
付属資料		18
	11. 3第2四半期累計期間貸借対照表	19
	11. 3第2四半期累計期間損益計算書	20
	経営指標①	21
	経営指標②	22

連結業績 直近6期推移



連結総資産&純資産 直近6期推移



第一章 11. 3期業績予想

- 金額表示は四捨五入して表示しております。
- 表中の数値は端数調整は行なってありません。

3

「コストに見合った価格実現！」進捗遅れ、減益へ

単位：億円

	10. 3	11. 3E	増減
売上高	1,767	1,740	△ 27
営業利益	73	50	△ 23
経常利益	71	48	△ 23
当期利益	34	23	△ 11

営業利益の増減要因

1. 事業政策
2. コストダウン

総合計	△ 23
	△ 29
	6

4

更なる原料相場高騰の中、不退転の決意で価格是正へ

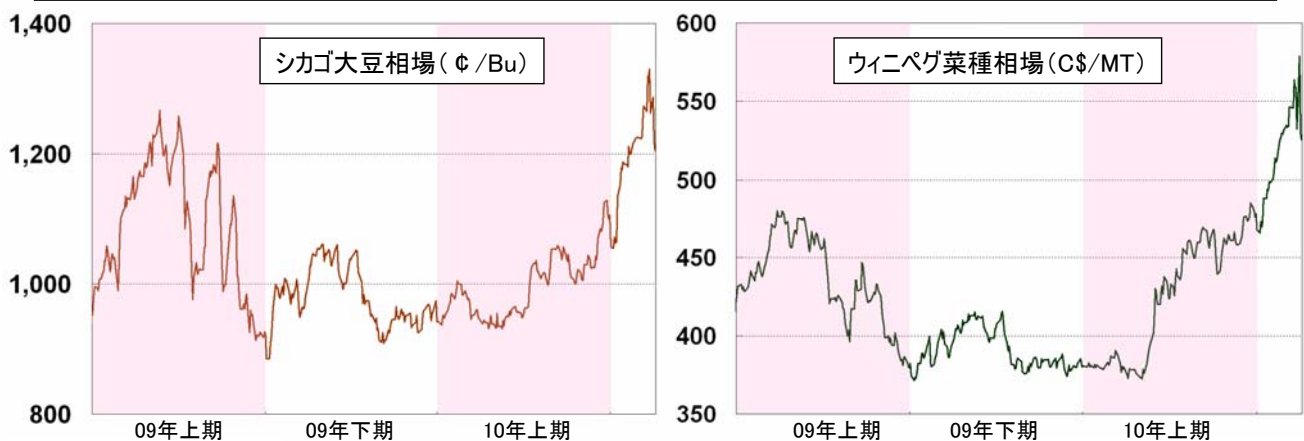
1. 事業政策

(単位:億円)	11. 3E対 10. 3	上期	下期
合計	△ 29	△ 35	6
①原材料費及び購入油コスト	△ 51	△ 8	△ 43
②販売政策	29	△ 25	54
③燃料費・資材費コスト	△ 11	△ 4	△ 7
④各事業の基盤強化と発展成長(中計施策)	△ 0	△ 2	2
⑤新製品の導入と付加価値商品の拡販(中計施策)	8	4	4
⑥広告とマーケティング投資	△ 4	△ 0	△ 4

年度別推移	7. 3	8. 3	9. 3	10. 3	11.3E上	11.3E下	11. 3E
①原材料及び購入油コスト	△ 5 8	△ 2 0 4	△ 2 5 5	3 6 2	△ 8	△ 4 3	△ 5 1
②販売政策	2	1 6 0	2 7 3	△ 3 5 2	△ 2 5	5 4	2 9
⑤新製品ーと付加価値ー	6	5	1 3	1 2	4	4	8
合計	△ 5 0	△ 3 9	+ 3 1	+ 2 2	△ 2 9	+ 1 5	△ 1 4

5

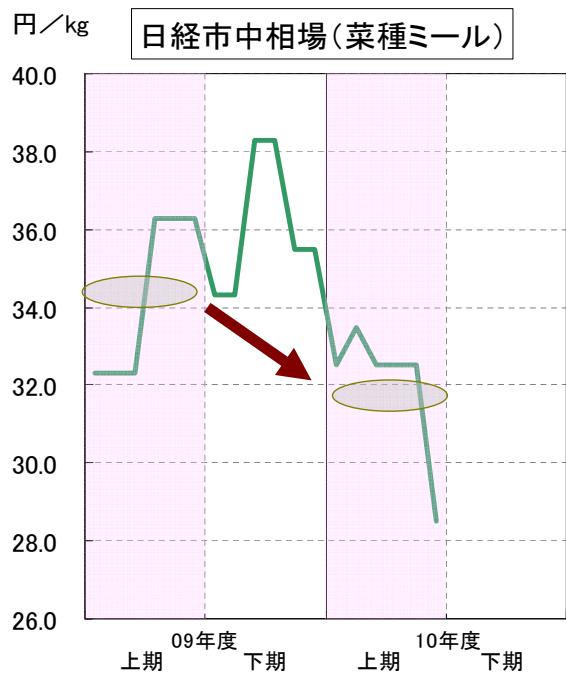
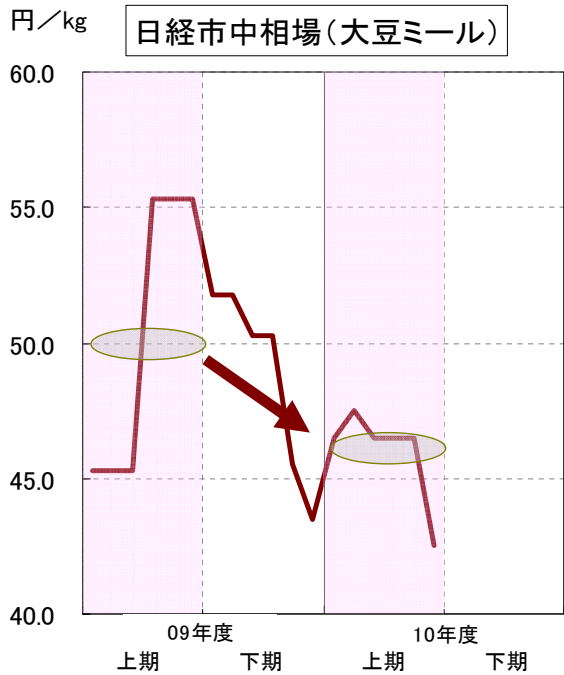
海外相場は急騰



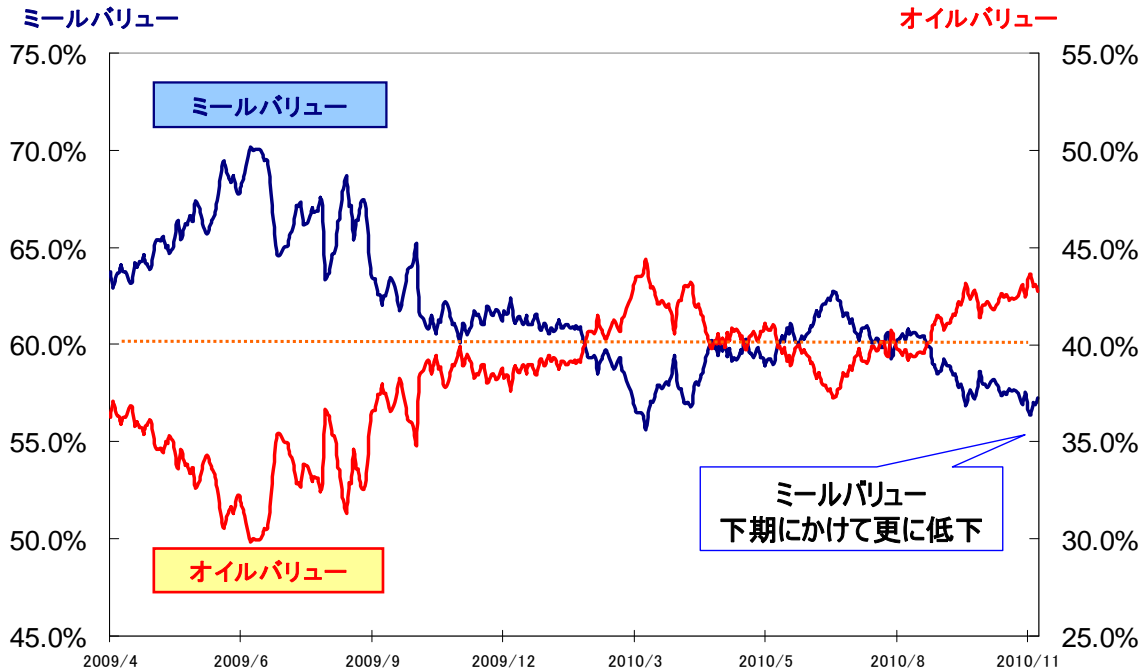
パーム油と他油種の
価格差はなくなった

6

ミール市中相場は、海外相場と円高により低下

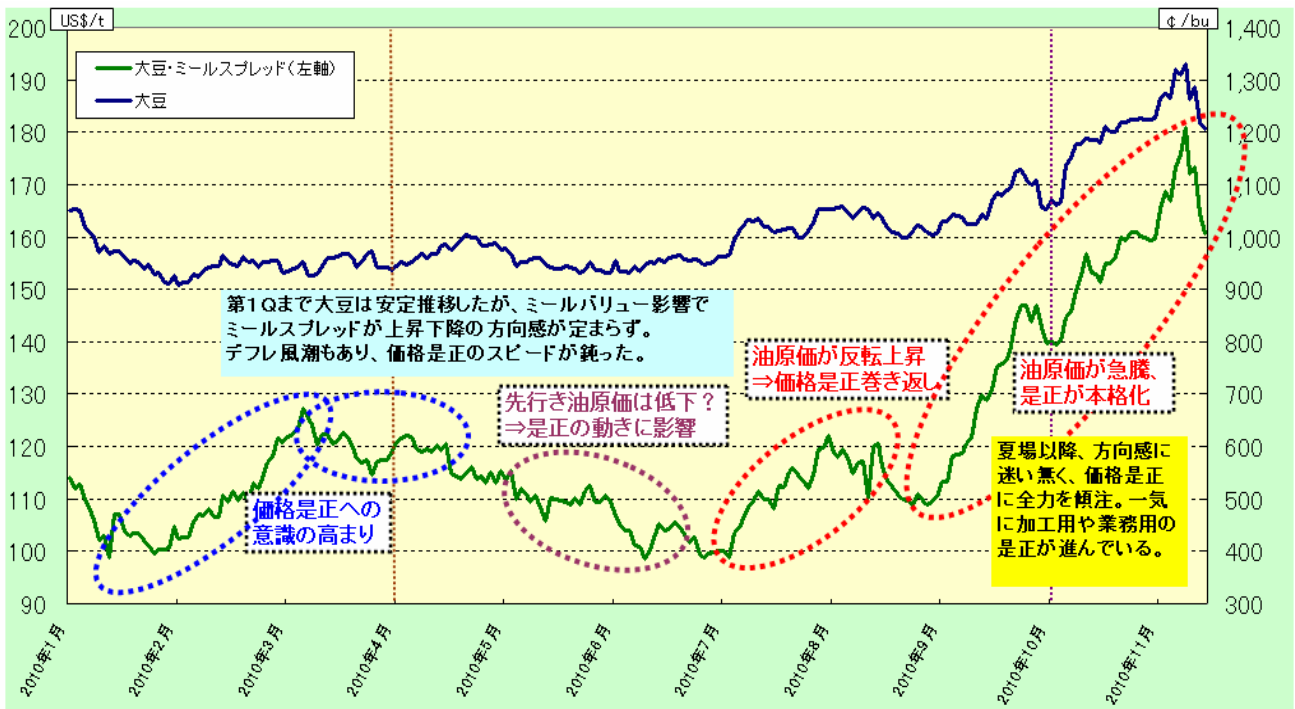


ミールバリューは下期にかけて、さらに低下傾向

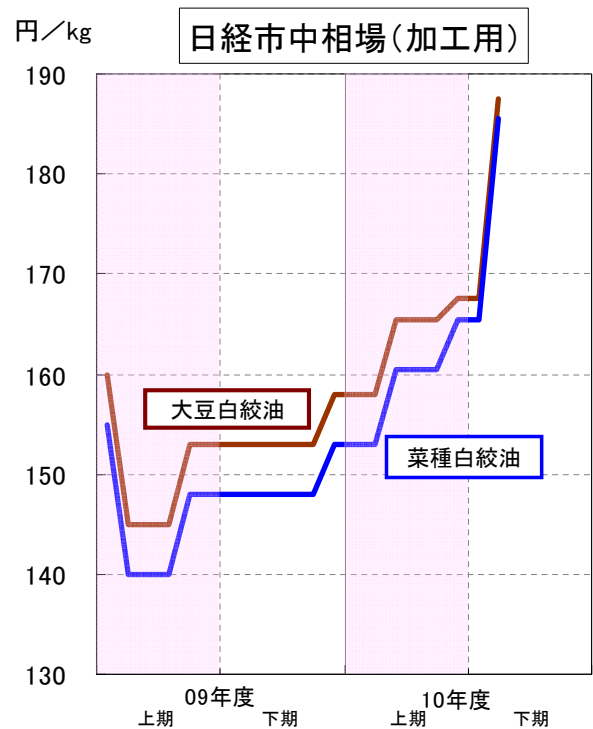


09上期:ミールバリューが記録的に高い水準で推移
 09下期:ミールバリューが急激に低下、オイルコストの上昇に直結
 10上期:ミールバリュー回復せず、オイルコストの上昇続く

大豆相場上昇とミールバリュー下降が重なり油原価急上昇



原料高に遅れるも、価格上昇が進む



業績対策から下期シフト策実施、通期は期首目標を維持。

2. コストダウン	単位: 億円	11. 3E対 10. 3	上期	下期
合 計		6	10	△ 4
①生産・物流・原材料のコストダウン		12	7	5
②固定費の削減		△ 6	3	△ 9

[主なコストダウン項目]

- ① 生産: 搾油体制の整備による搾油集中効果ほか
物流: 倉庫費用・物流費の削減
原材料: 包材見直しによるコストダウンほか
- ② 固定費の削減
設備費(償却費・修繕費ほか)、労務費、諸経費

11

第二章 中期経営計画

- 金額表示は四捨五入して表示しております。
- 表中の数値は端数調整は行なっておりません。

12

第二期中期経営計画の進捗状況

1. CSR経営の推進 食品安全の強化と品質向上の推進

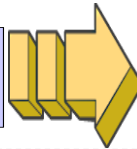
2. 人財の育成と人事制度改訂

		(2006年度対比2010年度)	(最終年度) 4か年累計目標	10年度 (上期)	07-09年 累計	10年度 (見込み)	4か年累計 (見込み)
収益改善施策	事業政策 48億円	3. 各事業の基盤強化と発展、成長	10億円	△2億円	1億円	0億円	1億円
		4. 新製品の導入と付加価値商品の拡販 (スピードアップ・スケールアップ)	38億円	4億円	30億円	8億円	38億円
	コスト ダウン 59億円	5. 生産・物流・原材料のコストダウン	56億円	7億円	46億円	12億円	58億円
		6. 固定費の削減	3億円	3億円	13億円	△6億円	7億円
		収益改善目標額	107億円	12億円	90億円	14億円	104億円

収益改善目標は、ほぼ達成見込み

[収益改善の内訳]

<第一期中期経営計画成果>



<第二期中期経営計画成果(見込)>



13

第三期中期経営計画の方向性

経営理念

『ステークホルダーの方々の幸せを実現する』

『お取引先様』・『社員』・『株主』・『社会』

～4つの大きなステークホルダーの方々の幸せを実現～

事業戦略

『**基盤強化・新たな成長戦略**への挑戦』

【製油事業】

「商品力」
「営業力」
「コスト競争力」
「オペレーション力」

【海外事業】

「海外事業展開」が必須
⇒「第三期中期経営計画」
期間中の実現目指す

【食品・ファイン事業】

「でん粉」・「健康食品」・「ファイン」
「大豆たん白食品」・「化成品」
「癌診断薬としてのレクチン」
⇒可能性の顕在化

事業戦術

『社外アライアンスを積極的に活用』

～当社が持っていない経営資源(資産、人材、技術)を持っている企業※との協業～

(※味の素㈱、不二製油㈱、辻製油㈱、等)

14

糖鎖関連技術の活用 【レクチン】

【レクチンライブラリーの開発】

●糖鎖関連疾患の診断に役立つ

新しいレクチンの開発・供給

レクチンは、動植物をはじめ、多くの微生物に存在
2003-05年度に参画したNEDOプロジェクト
(糖鎖構造解析)や産総研・糖鎖医工学センターとの
7年間の共同研究を通じて、1,500以上の生物資源
(植物、動物、キノコなど)からレクチンを探索・精製



<レクチンの原料の例>

●レクチンを使った

糖鎖関連疾患の検出法を提供

レクチンの特異性およびレクチンの癌・正常組織
(または細胞)への結合性に関する情報を保有

**肝臓癌診断に有用な独自のレクチンを保有
(特許出願済)**



スターチ部門の新しい可能性 【アミコート】

『加工でん粉』の新しい機能提案：大手ユーザーへの納入決定

米飯改質材

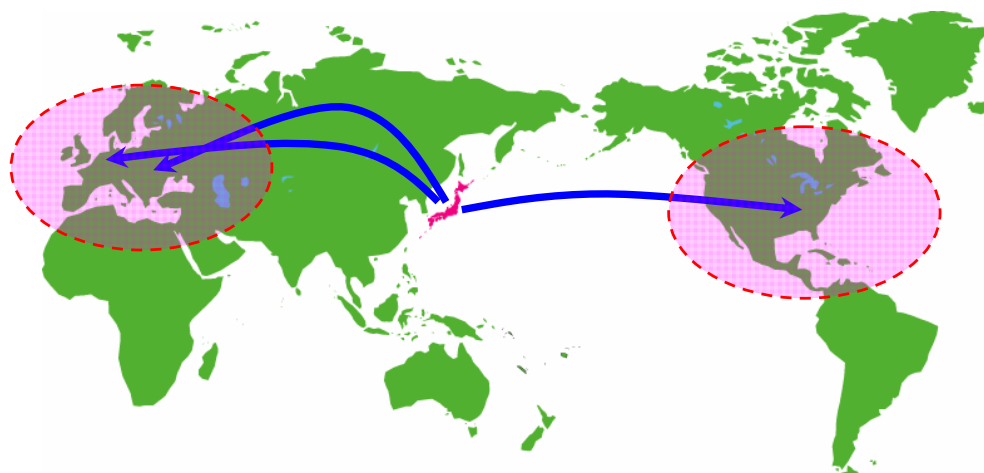
アミコート®

- ご飯成型機、おにぎり成型機での作業性が向上
- 一粒一粒を感じるほぐれの良いご飯に仕上がる
- 艶のあるご飯に仕上がる
- 釜内または釜毎の炊飯ムラを抑える



いよいよ拡販段階へ【ビタミンK2】

欧州・米国へのチャネルを構築中！



<ビタミンK2>

骨粗鬆症と動脈硬化を予防するサプリメントや健康機能食品の素材として、欧州・米国をはじめとする海外販売に大きく貢献するものと期待

(1) 骨粗鬆症の患者数推定(WHO 報告): 世界で2億人(WHO 報告)

(2) 骨粗鬆症の治療費用(国際骨粗鬆症財団): 米国で180 億ドル、欧州で320 億ユーロ

◆ FDAのSelf-affirmed GRAS取得(2008.2月)

◆ 欧州食品安全機関(EFSA)の安全性を確認(2008.11月)

17

付属資料

18

11. 3第2四半期累計期間 貸借対照表

四半期連結貸借対照表

単位: 億円

		11. 3上	10. 3上	10. 3			11. 3上	10. 3上	10. 3
流動資産	現預金	68	87	80	流動負債	仕入債務	105	148	147
	売上債権	308	334	348		借入金	178	281	180
	棚卸資産	272	283	278		その他	136	156	165
	その他	33	150	50		債 合計	419	585	492
合計		680	854	756	固定負債	社債・借入金	169	193	184
						その他	103	106	106
						負 債 合計	272	299	290
固定資産	有形固定資産	553	568	563	純資産	資本金	100	100	100
	無形固定資産	7	9	8		資本剰余金	316	316	316
	投資その他	111	110	121		利益剰余金他	243	239	249
	合計	670	687	691		合計	659	656	666
資産合計		1,351	1,540	1,447	負債・純資産合計		1,351	1,540	1,447

投資関連データ

単位: 億円

	10. 3上	10. 3	11. 3上	11. 3E
設備投資額	31	63	29	68
減価償却費	30	65	32	67
研究開発費	7	16	7	15
有利子負債	474	364	347	332

19

11. 3第2四半期累計期間 損益計算書

四半期連結損益計算書

単位: 億円

	11. 3上	10. 3上	10. 3
売上高	836	883	1,767
売上原価	698	716	1,446
販売費及び一般管理費	120	124	248
営業利益	18	43	73
営業外損益	0	△ 1	△ 3
経常利益	18	42	71
特別損益	△ 5	△ 4	△ 12
税引前利益	13	38	59
法人税他	5	15	25
四半期(当期)純利益	8	22	34

20

経営指標①

	2011年3月期 第2四半期	2010年 3月期	2009年 3月期	2008年 3月期
ROA	-	2.3%	1.1%	1.7%
ROE	-	5.2%	2.7%	4.0%
売上高営業利益率	2.1%	4.1%	2.1%	1.7%
売上高経常利益率	2.2%	4.0%	2.0%	2.3%
自己資本比率	48.8%	46.0%	41.5%	42.2%
1株当たり純資産(円)	395.0	398.7	382.7	383.4
有利子負債営業CF倍率(倍)	-	2.4	3.9	6.8

21

経営指標②

	11年3月期 第2四半期	10年3月期 第2四半期	09年3月期 第2四半期	2010年 3月期	2009年 3月期	2008年 3月期
自己資本比率(%)	48.8	42.6	40.8	46.0	41.5	42.2
時価ベースの 自己資本比率(%)	28.8	33.0	46.9	33.8	28.5	30.0
CF対有利子負債 比率(%)	-	-	-	235.4	394.7	677.3
インタレスト・カバレッ ジ・レシオ(倍)	13.0	32.0	-	24.2	22.2	14.0

22